

## 松山高等女学校勤労働員関係史料(1)概要

- 1: 文書群番号 087014
- 2: 文書群名 松山高等女学校勤労働員関係史料(1)
- 3: 出所 松本家
- 4: 家業・役職等 松山高等女学校4年
- 5: 地名 尼崎市北難波町
- 6: 行政区分 尼崎市
- 7: 歴史  
戦時下の労働力不足に対処するため、昭和13年(1938)以降学徒の勤労働員が実施された。政府は動員政策を段階的に本格化させ、19年3月には中等学校以上生徒全員の工場への配置を決定するに至る。さらに翌年3月には(国民学校初等科を除く)一年間の授業停止が閣議決定された。  
当時松山高等女学校4年に在学中であった松本栄子氏は、19年11月7日から住友金属(株)プロペラ製造所神崎製作所への勤労働員で尼崎に滞在、兵器生産に従事した。
- 8: 伝来 昭和62年(1987)12月26日、二宮栄子氏より寄贈受入。63年1月8日受入手続。平成14年(2002)8月に整理、目録作成を完了。
- 9: 史料入手先 二宮(旧姓松本)栄子氏(原蔵者)
- 10: 点数 12点(目録件数12点)
- 11: 年代 昭和19年(1944)～昭和21年
- 12: 構造と内容  
本文書群は、①松本氏が姉に書き送った書簡②勤労働員に関する公的文書③動員中の出来事を記した日記④松本氏が当時使用していた物品から構成される。①はいずれも便箋に書かれているが、封筒は残されていない。松本氏は、呉に動員されていた姉(女子挺身隊に組織されたと推測される)に、松山や尼崎から近況を伝えている。③の日記と併せ、動員計画が実施に移されてゆく過程や動員先での実態を知ることができ、興味深い。なお日記には、戦後の記述もある。  
本文書群の書簡及び日記(戦後の記載を除く)は、地域研究史料館紀要『地域史研究』第54号(1989年3月)に翻刻・紹介されている。目録作成に当たり、日付不明の書簡については紀要の記述に従った。
- 13: 関連史料 尼崎精工勤労働員生徒書簡類
- 14: 閲覧条件 原本、一部翻刻史料あり
- 15: 作成者 島田克彦